

科学研究費助成事業（科学研究費補助金）研究成果報告書

平成24年 6 月 4 日現在

機関番号：12601

研究種目：基盤研究（B）

研究期間：2009～2011

課題番号：21310155

研究課題名（和文）北東アジアから東南アジアをつなぐ華人ネットワークについての研究

研究課題名（英文）A study on Southern China based Chinese networks that spread over North East Asia and South East Asia

研究代表者

谷垣 真理子（TANIGAKI MARIKO）

東京大学・大学院総合文化研究科・准教授

研究者番号：50227211

研究成果の概要（和文）：

本プロジェクトは華南を起点とする華人ネットワークが北東アジアから東南アジアまでをどのように結びつけ、ヒト・モノ・金・情報の交流が行われているのかを検討した。本プロジェクトは北東アジアを視野に入れたことが特徴であり、現地調査を大きな柱とした。具体的には、北洋におけるコンブ貿易、北海道華僑社会、東南アジア華人の複合的アイデンティティ、広東省関元昌一族、マカオのハブ機能、珠江デルタにおける人材交流、台湾の客家文化運動、珠海の三龕島についての研究が実施された。この間、中国の厦門大学と中山大学、香港城市大学香港大学との研究交流が積極的に行われた。

研究成果の概要（英文）：

The project aimed to explore how Southern China based Chinese networks spread over Northeast and Southeast Asia. Various researches were conducted on topics such as the kelp trade in the north seas, cultural exchanges between Chinese communities from Hokkaido and Japan mainland, the multi-faceted identities of overseas Chinese in Southeast Asia, the family history and reunion activities of a Kwan diaspora family from Guangdong, mainland students in Hong Kong SAR, the Hakka cultural revival movement in Taiwan, the historical role of San Zao island as a cross-point between Japan and Southern China.

During the past three years, this project's members successfully cultivated academic cooperation ties with Xiamen University, Sun Yat-sen University, City University of Hong Kong and The University of Hong Kong.

交付決定額

（金額単位：円）

	直接経費	間接経費	合計
2009年度	4,900,000	1,470,000	6,370,000
2010年度	4,300,000	1,290,000	5,590,000
2011年度	3,700,000	1,110,000	4,810,000
年度			
年度			
総計	12,900,000	3,870,000	16,770,000

研究分野：地域文化研究（東アジア）、華人研究

科研費の分科・細目：地域研究

キーワード：華人、華南、ネットワーク、北東アジア、東南アジア、サハリン、香港ディアスポラ、客家

1. 研究開始当初の背景

本プロジェクトは北東アジアから東南アジアまで、いかにして華人ネットワークが結び、ヒト・モノ・金・情報の交流がおこなれ、相互の関連がみられるのかをさぐるものである。当該地域では、中国が高度経済成長に入った1990年代以後、沿海都市を中心にほぼリアルタイムで経済情報や社会情報が共有されるようになった。

従来、華南を出発点とする華人ネットワークについては、東南アジアとの結びつきや北米への延伸が指摘されてきた。しかし、函館外国人居留地研究会の小川正樹によれば、華南から沖縄、長崎、神戸をへて函館と至る経路と、華南から北上して旧満洲を経て旧樺太（サハリン）に至り、そこから南下して北海道に至る経路が存在するという。

そこで、本プロジェクトでは、東南アジアとともに、北東アジアをプロジェクトの重要な柱として置くことにした。

2. 研究の目的

華南を起点とする華人ネットワークを、北東アジアと重ねあわせることで、本プロジェクトではこれまでとはちがった華人ネットワーク像を提起しようとした。

北東アジアを視野に入れることで、日本もまた華人ネットワークの重要な構成要素として再認識することを目指した。急速に拡大しつつある北海道における日ロ交流を想起すると、東南アジアと北東アジアを結ぶ華人ネットワークの中継地として日本を再評価することを目指した。

3. 研究の方法

本プロジェクトは現地調査の実施が重要な柱となる。海外調査と国内調査を毎年計画している。国内調査を合同で行うほか、海外調査でも複数回、合同調査を企画する。本プロジェクトが扱う地域は北東アジアから東南アジアまで広範囲にわたる。プロジェクトの成果を充実したものとするため、各参加者の知識のプロジェクトでは平準化をはかる必要があった。このため、本プロジェクトでは合同調査を積極的に実施した。調査時にさまざまな事象を専門家によるクロスチェックが容易にでき、また時間を共有することで密度の濃い討論が可能となった。

2で述べたように、本プロジェクトは北東アジアを華人ネットワークの北端として位置づける。本プロジェクトではロシア系や朝鮮系住民と日本との交流を媒介項として重視し、プロジェクトの途中で韓国・朝鮮研究者に研究協力者として参加してもらった。

また、華人ネットワークのなかで日本を再評価する際に、函館・横浜・神戸・長崎・沖

縄などの日本の中華街研究の成果を積極的に取り入れ、当該方面の研究者にも本プロジェクトに参加してもらった。

こうした試みは、華人ネットワークに注目することで、「東アジア共同体」の歴史的淵源と現況を分析することにつながった。

4. 研究成果

本プロジェクトでは、北洋におけるコンブ貿易、北海道華僑社会、東南アジア華人の複合的アイデンティティ、広東省関元昌一族、マカオのハブ機能、珠江デルタにおける人材交流、台湾の客家文化運動、珠海の三竈島についての研究が実施された。

具体的な研究成果は、「5. 研究業績」にある14点の論文、17点の学会発表、10点の図書に結実している。プロジェクトの最終年度より、本プロジェクト参加者による出版を企画し、2012年度の出版助成申請を目指し、原稿の執筆を進めている。

このほか、2009年には『東亜』に「多面的華南世界」をプロジェクト参加メンバーが共同で企画・連載した。2010年にはアジア政経学会の全国大会で共通論題「多面的な中華世界の展開—華南におけるグローバリゼーション」を企画し、コアメンバーである谷垣と塩出、容が報告した。2011年には中国広州市の中山大学で開催された「東アジアの国境を越える協力と地域の平和」国際シンポジウムに研究代表である谷垣が招聘され、容が報告し、塩出も参加した。

こうした中で、本プロジェクトは海外の研究者との研究交流を積極的に行った。中国の厦門大学や中山大學、香港城市大学、香港大学との研究協力関係が順調に構築された。現在執筆を進めている本プロジェクトの成果論文集には、協力関係のある研究者からの寄稿も掲載する。

最後に、本プロジェクトは3年の間に移民研究・東アジア共同体研究という新しい方向性を見出した。特に前者については、華人ディアスポラとインディアンディアスポラ、コリアンディアスポラとの比較研究の可能性を模索している。

5. 主な発表論文等

(研究代表者、研究分担者及び連携研究者には下線)

[雑誌論文] (計 1件)

[雑誌論文] (計 14件)

- ① 谷垣真理子、広東関元昌一族のリユニオン活動、朝鮮族研究学会雑誌、査読有、創刊号、2011、1-23。
- ② 塩出浩和、マカオの諸政党とその社会、

- 城西国際大学中国文化研究センター年報、査読無、No. 8、2012、79-91。
- ③ 谷垣真理子、返還後の香港における区議会選挙、ODYSSEUS (東京大学総合文化研究科)、査読無、No. 15、2011、47-72。
- ④ 神長英輔、コンブの道—サハリン島と中華世界、ロシア史研究、査読有、No. 88、査読有、2011、64-77。
- ⑤ 塩出浩和、自律的政治体マカオの越境と被越境、城西国際大学中国文化研究センター年報、No. 7、2011、35-41。
- ⑥ 谷垣真理子、現代香港における「政治」の出現、日本比較政治学会年報第 12 号 (都市と政治的イノベーション)、査読有、No. 12、2010、63-87。
- ⑦ 谷垣真理子、カナダへの香港人移民、東洋文化研究所紀要 (東京大学)、査読無、No. 157、2010、156-190。
- ⑧ 谷垣真理子、香港 (2) — 「華人の都」と「中国の一都市」の共存、西村成雄 (編著)、『現代東アジアの政治と社会』、放送大学出版会、査読有、2010、154-168。
- ⑨ 林少陽、日本の「新感覚派」と香港の文学、東亜 (「連載: 多面的華南世界 < 4 >」、査読無、No. 505、2009、100-107。
- ⑩ 容應萸、あるディアスポラ家族の物語、東亜 (「連載: 多面的華南世界 < 3 >」、査読無、No. 504、2009、86-96。
- ⑪ 谷垣真理子、大都市香港のなかの「村」、東亜 (「連載: 多面的華南世界 < 2 >」、査読無、No. 503、2009、92-101。
- ⑫ 塩出浩和、広東歴史文化紀行 — 珠海とマカオ、東亜 (「連載: 多面的華南世界 < 1 >」、査読無、No. 502、2009、100-107。
- ⑬ 日野みどり、中国・上海市における高齢化の現状と課題—配偶者との死別後の悲嘆ケアシステムを構築するために、金城学院大学論集社会科学編、Vol. 7, No. 1、2010、58-70。
- ⑭ 日野みどり、現代中国の「人材市場」と留学帰国者——現状と展望、金城学院大学論集社会科学編、Vol. 6, No. 1、2009、26-42。
- [学会発表] (計 17 件)
- ① 容應萸、孫中山と香港基督徒家族 (中国語)、辛亥革命と香港基督教学術研究討論会 (招待講演)、2011 年 11 月 23 日、香港城景国際ホテル。
- ② 容應萸、孫文と容閔: 香港キリスト者家族を基盤とした変革運動との接点、日本華人教授会議辛亥革命 100 周年記念国際シンポジウム (招待講演)、2011 年 11 月 20 日、東京大学福武ホール。
- ③ 容應萸、孫文、容閔と容星橋 (中国語)、辛亥革命 100 周年記念座談会 (招待講演)、2011 年 10 月 24 日、中国珠海市。
- ④ 谷垣真理子、日本における現在進行形の東アジア共同体 (中国語)、「東アジアの国境を越える協力と地域の平和」国際シンポジウム (招待講演)、2011 年 9 月 6 日、中国広州市・中山大学。
- ⑤ 容應萸、華人家族的国際移動と東亜跨国境合作 (中国語)、「東アジアの国境を越える協力と地域の平和」国際シンポジウム、2011 年 9 月 6 日、中国広州市・中山大学。
- ⑥ 日野みどり、中港高等教育走向一体化: 着眼于香港各大学接納内地学生 (中国語)、第 5 回「現代中国と東アジアの新環境」国際シンポジウム、2011 年 8 月 20 日、中国・内モンゴル大学。
- ⑦ 容應萸、ニューイングランドにおける容閔と留米幼童の足跡 (中国語)、容閔の留米教育計画 140 周年記念シンポジウム (中国珠海市政府)、2010 年 11 月 17 日。
- ⑧ 谷垣真理子、民主と愛国: 香港における政治エリートの形成 (共通論題「多面的な中華世界の展開—華南におけるグローバル化」)、2010 年度アジア政経学会全国大会、2010 年 10 月 23 日、東京大学駒場キャンパス。
- ⑨ 塩出浩和、自律的政治体マカオの越境と被越境 (共通論題「多面的な中華世界の展開—華南におけるグローバル化」)、2010 年度アジア政経学会全国大会、2010 年 10 月 23 日、東京大学駒場キャンパス。
- ⑩ 容應萸、グローバル化と華人ディアスポラ家族の生成と変動: 中国広東省閩氏一族の場合 (共通論題「多面的な中華世界の展開—華南におけるグローバル化」)、2010 年度アジア政経学会全国大会、2010 年 10 月 23 日、東京大学駒場キャンパス。
- ⑪ 日野みどり、为建立化解丧偶悲痛的系统: 从上海老龄化状况谈起 (配偶者との死別後の悲嘆ケアシステムを構築するために—上海市における高齢化の現状から)、第 4 回「現代中国と東アジアの新環境: 近代中国革命、社会変化と国際的視角」国際学術シンポジウム、2010 年 8 月 27 日、中国・贛南師範学院。
- ⑫ 塩出浩和、アジア太平洋戦争中と戦後すぐの香港—外国統治下の『民主主義』、沖縄マカオ香港研究会北谷部会 (共催: 第 38 回 広東研究会)、2009 年 11 月 2 日、沖縄県北谷町美浜メディアステーション研修室。
- ⑬ 日野みどり、現代中国高学歴人群職業観形成的考察: 以有無實際工作經驗為着眼点、第 3 回「現代“中国”の社会変容と東アジアの新環境」国際シンポジウム、2009 年 8 月 26 日、大阪大学。

- ⑭ 山本博之、資格としての民族：マレーシアにおける「連邦制」の展開、東南アジアとヨーロッパのリージョナリズム：相関地域研究の試み、2009年10月31日、東京大学。
- ⑮ 山本博之、Who are 'Our People'?: Reading Abu Bakar Ella's Orang Kita (Our People) and PTI (Unauthorized Love) in Sabah, Malaysia、Filmic Intervention in Southeast Asia、2009年11月11日、京都大学。
- ⑯ 塩出浩和、一九四〇年代の香港政治制度改革—戦中と戦後、その継続性、日本華僑華人学会2009年度第3回研究会(共催：第37回 広東研究会)、2009年9月28日、東京大学駒場キャンパス。
- ⑰ 谷垣真理子、現代香港における「政治」の出現、日本比較政治学2009年度会全国大会、共通論題「都市と政治的イノベーション」、2009年6月28日、京都大学。

[図書] (計10件)

- ① 日野みどり、配偶者との死別後の悲嘆ケアシステムを中国に構築するために、田中仁・三好恵真子編『共進化する現代中国研究—地域研究の新たなプラットフォーム』、大阪大学出版会、2012、364(306-327)。
- ② 神長英輔、開かれた海の富と流刑植民地—日露戦争直前のサハリン島漁業、原暉之編著『日露戦争とサハリン島』、北海道大学出版会、2011、450(65-95)。
- ③ 塩出浩和、戦後香港における憲政改革と香港社会—一九四七年から四八年、中央大学人文科学研究所編『中華民国の模索と苦境—1928~1949』中央大学出版会、2010、127-153。
- ④ 容應萸、グローバリゼーションと華人ディアスポラ家族の生成と変動：中国広東省関氏一族の場合」星野昭吉編著『グローバル社会における政治・法・経済・地域・環境』、亜細亜大学購買部ブックセンター、2011、259-278。
- ⑤ 山本博之 (編著)、『カラム』の時代—マレー・イスラム世界の「近代」、京都大学地域研究統合情報センター、2010、46。
- ⑥ 西尾寛治・山本博之 (編著)、マレーシアにおける公正/正義概念の展開、京都大学地域研究統合情報センター、2010、57。
- ⑦ 林少陽、「修辞」という思想：漢字圏言語論的批判理論のために、木鐸社、2009、381。
- ⑧ 貴志俊彦・谷垣真理子・深町英夫編『模索する近代日中関係：対話と競存の時代』東京大学出版会、2009、324。
- ⑨ 容應萸、異郷に育つ—19世紀アメリカの日本人・中国人留学生、貴志俊彦・谷垣

真理子・深町英夫編『模索する近代日中関係：対話と競存の時代』東京大学出版会、2009、324(3-21)。

- ⑩ 日野みどり、新青學社とその活動—雑誌『新青』を中心に、吉川雅之編『「読み・書き」から見た香港の転換期—1960~70年代のメディアと社会』、明石書店、2009、299(253-289)。

[産業財産権]

○出願状況 (計0件)

○取得状況 (計0件)

[その他]

ホームページ等

塩出浩和研究室

<http://homepage2.nifty.com/hirokazushio/de/index.htm>

<http://hirokazushiode.cocolog-nifty.com>
(2011年度より)

日本華南学会

<http://japansouthchina.cocolog-nifty.com/>

6. 研究組織

(1) 研究代表者

谷垣 真理子 (TANIGAKI MARIKO)

東京大学・大学院総合文化研究科・准教授
研究者番号：50227211

(2) 研究分担者

塩出 浩和 (SHIODE HIROKAZU)

城西国際大学・留学生教育センター・准教授
(2010年に助教より昇進)

研究者番号：60235497

容 應萸 (YOU OUYU: YUNG YINGYUE)

亜細亜大学・経営学部・教授

研究者番号：2023849

林 少陽 (RIN SHOUYOU: LIN SHAOYANG)

東京大・教養学部・准教授

研究者番号：20376578

(2010年に香港城市大学[人文社会科学院・副教授]に転出、研究協力者に変更)

日野 みどり (HINO MIDORI)

金城学院大学・国際文化社会学部・教授

2010年より同志社大学・グローバルコミュニケーション部・教授

研究者番号：00367632

研究者番号：00367632

神長 英輔 (KAMINAGA EISUKE)

新潟国際情報大学・情報文化学部・教授
研究者番号：40596152
(2010年まで研究協力者)

院生(2011年度のみ)

(3)連携研究者

山本 博之(YAMAMOTO HIROYUKI)
京都大学・地域研究統合情報センター・
准教授
研究者番号：80334308
(2010年度から研究協力者に変更)

そのほか 研究協力者 13名
(国外) 7名

陳 広漢(CHIN KOUKAN:CHEN GUANGHAN)
中国中山大学・アジア太平洋学院 香港マカ
オ珠江デルタ研究センター・所長兼教授

毛 艶華(MOU ENKA: MAO YANHUA)
中国中山大学・アジア太平洋学院 香港マカ
オ珠江デルタ研究センター・教授

程 美宝(TEI MEIHOU: CHENG MEIBAO)
中国中山大学・歴史系・教授

魏 志江(GI SHIKOU:WEI ZHIJIANG)
中国中山大学・アジア太平洋学院 韓国研究
所・教授

黄 紹倫(KOU SHOURIN: WONG SIU-LUN)
香港大学・アジア研究センター・教授

鄭 宇碩(TEI USEKI:JOSEPH CHENG YU-SHEK)
香港城市大学・人文社会科学学院・教授

ポール・バン・ダイク(POURU BAN DAIKU:PAUL
A. VAN DYKE)
マカオ大学・歴史系・教授

(国内) 6名
飯島 典子(IIJIMA NORIKO)
広島市立大学・国際学部・准教授)

小川 正樹(OGAWA MASAKI)
函館ラサール高校・教員

和仁 廉夫(WANI YUKIO)
日本華僑華人学会員・ジャーナリスト

崔 学松(SAI GAKUSHOU:CHE HAKSONG)
一橋大学・言語社会研究科・大学院生(2011
年6月より特別研究員)

内藤 理佳(NAITO RIKA)
上智大学・文学部・兼任講師(2011年度のみ)

八尾 祥平(YAO SHOUHEI)
首都大学東京・大学院人文科学研究科・大学